

平成26年度 学部教育の成果に関するアンケート調査結果の分析

1. 調査の概要

この調査は平成26年度の学部卒業生を対象にして、学部教育の成果について質問したものである。方法は質問紙方式で、平成27年3月11日に卒業対象者255名に質問紙を配布、3月23日までに回収した。回収数は104名、回収率は40.8%である。回収率が平成25年度の50.6%よりも大きく低下している。

2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について、前回平成25年度の結果とも比較しながら概要を述べる。

1) 卒業後の進路について

卒業後の進路は農業団体を含む農畜産業(26.0%)と会社員(販売・サービス)(22.1%)が多く、大学院生・研究生、公務員・教員がそれに続く。進路先については78.8%が「希望した職種である」と答えており、学生の希望が進路に反映されているといえる。

平成25年度の結果と比較すると、大学院生・研究生が28.9%から16.3%に大きく減っているいっぽうで、会社員(販売・サービス)、公務員・教員が増加していることが目立つ。経済情勢の変化が反映されていると思われる。

2) ユニットでの学習、卒業研究について

各ユニットでの学習、卒業研究への満足度を尋ねた。畜産科学課程のユニット選択制度については76.5%の学生が「今のままでよい」としているが、「部分的に変えたほうがよい」という学生も15.3%いた。平成25年度と比較して、ユニット選択制度への肯定的な意見が増加している。

60.0%の学生がユニットでの学習に「とても満足している」としており、「どちらかといえば満足」の31.8%と合わせると、9割以上の学生がユニットでの学習には満足していることがわかる。

卒業研究の履修、指導教員からの指導についても満足度が高く、86.5%の学生が「とても満足」「どちらかといえば満足」と答えている。学生はユニットの教育制度や教育内容、卒業研究の指導等に満足して卒業していつてくれていると考えることができる。

3) 帯広畜産大学でのさまざまな学習とその成果について

大学での学習を「ユニットの専門科目の学習」「理系の基盤・共通科目の学習」「人文社会体育系の学習」「外国語・コンピュータ科目の学習」「サークル活動や友人関係など学内の活動」「アルバイトや社会的活動など学外の活動」に分けて、それぞれへの取組み、満足度、卒後の進路に役立つかを尋ねた。

取組みの積極度、満足度、卒後の進路への役立ちのどの側面でも、「ユニットの専門科目の学習」および「サークル活動や友人関係などの学内活動」への評価が高くなっている。学生は、専門の科目とともに、サークル活動、友人関係などの学内活動に

積極的に取組み、満足し、またそれらの卒後の進路においても役立つと考えていることがわかる。

専門以外の科目の学習では、「理系の基礎・共通科目」が「人文社会体育科目」や「外国語・コンピュータ科目」に対して相対的に評価が高くなっている。特に、「外国語・コンピュータ科目」については、消極的だった、満足していない、卒後役に立つとは思わないという評価が他の活動分野に比べて相対的に多くなっている。この傾向は平成 25 年度調査でもほぼ同じだが、比較すると全体的に肯定的な方向に変化している。

また、「アルバイトや社会的活動などの学外活動」では、平成 25 年度と比較すると、積極的取組みや満足度などでは評価が低くなっている。単位の実質化で学生のアルバイト時間が減少していることが反映されているのかもしれない。

授業科目の中ではユニットの専門科目への評価が高く、理系の基礎・共通科目が続く。人文社会体育系科目では評価は低くなり、とくに外国語・コンピュータ科目については「消極的だったし、満足していないし、卒後に役に立つとも思わない」という評価が強くなっている。こうした傾向は平成 25 年度の調査でもほぼ同じだが、比較すると全体にやや肯定的な方向に変化している。

4) 帯広畜産大学の教育全体について

教育目標の達成度については「おおむね達成している」が 71.2%であるのに対し、「あまり達成していない」「まったく達成していない」という回答が 18.3%あった。平成 25 年度には「おおむね」が 57.0%であったことから、本学の教育目標がある程度達成されていると考える学生の方が多いし、そうした評価は前年より強まっているといえる。

教育システム全体についての評価では、「改善すべき部分が少しある」「改善する部分の方が多い」という回答が 4 割を超えている。自由記述回答をみると、特に獣医学課程で基礎科目、教養科目のレベルが低いという不満が多いこと、語学とコンピュータ科目の履修についての不満が多いことがわかる。後者の問題については平成 26 年度の入学者からは大幅な改善をしたものだが、卒業生に大きな不満を残したことがわかる。

帯広畜産大学に入学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」(59.6%)、「どちらかといえば満足している」(33.7%)で 9 割を超えており、卒業生は本学に入学して学んだことには高く満足してくれていることがわかる。自由回答をみると、先輩や友達、仲間との関係、サークルやアルバイトでの社会的スキルなどを手にいれたという記述が、専門的な技術や知識以上に満足度に貢献していることが推測され、こうした傾向には平成 25 年度と大きな変化はなかった。

以上